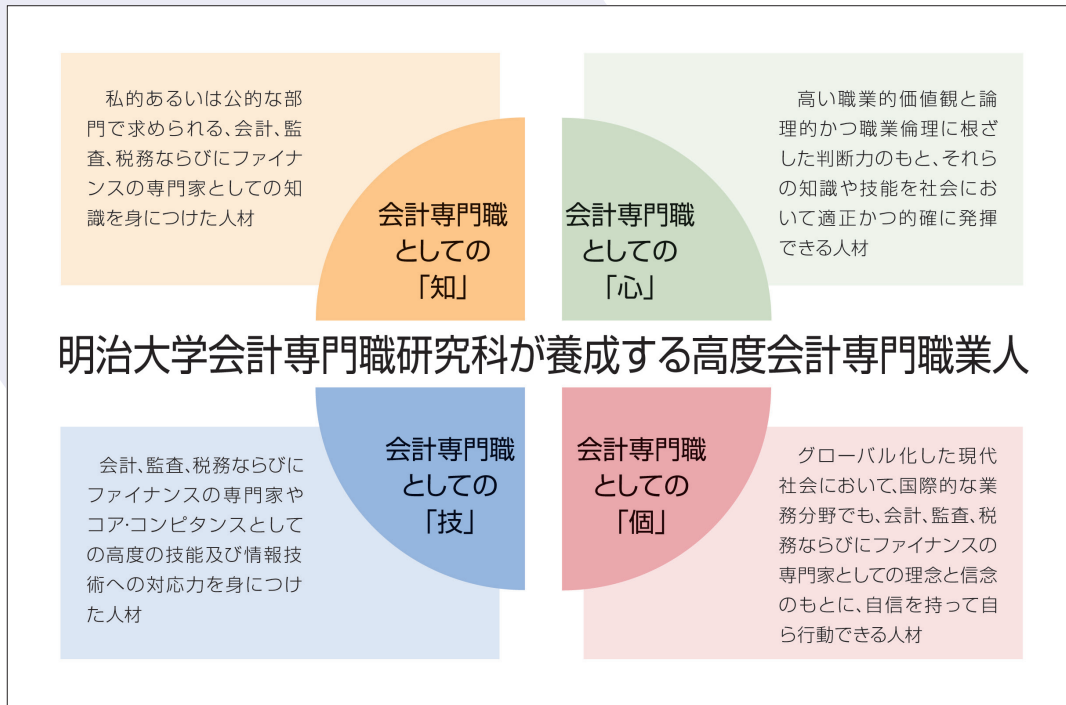


次世代を担う高度会計専門職業人の育成



メディア授業

会計専門職研究科では、2016年度秋学期から明治大学のeラーニングシステムを活用したメディア授業を導入しました。メディア授業は、パソコンがあれば、「いつでも、どこでも、繰り返し」講義を受けることができますので、自宅など学外でも講義視聴が可能になり、多忙な社会人も時間を有効活用しながら学習を進めることができます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、多くの大学で対面授業ができずに急遽オンライン授業を実施しました。このような状況下でも、本研究科ではメディア授業の実績があることから、対面授業と同等の教育効果を保ちながら授業を進めることができました。



メディア授業



収録スタジオ

会計プロフェッショナルの矜持



会計専門職研究科長 吉村 孝司

IFRS（国際会計基準）時代の到来という視野のもとに、わが国における会計制度改革の一環としての高度専門職業人の教育養成機関として2005年に明治大学専門職大学院会計専門職研究科は創設されました。

企業は、経済主体として利潤（私益）を追求し、経営主体としてステークホルダーの要請に応え（共益）、社会全体として社会環境の創造と貢献（公益）を使命とする存在であり、その実現のために、自らの存在および活動の継続性が求められるとともに、SDGs時代たる現在では経営のサステナビリティ（sustainability：持続可能性）が重要課題として位置づけられるようになりました。

企業を取り巻く経営環境はつねに加速度的に変化し続けており、企業経営のグローバル化と多様化および複雑化は、「車の両輪」の関係にある経営と会計に対してさらなる進化を求めています。

本研究科が養成する会計プロフェッショナル（高度会計専門職業人）とは、ただ単に会計ならびに経営に関する専門知識のみを有する者を指すのではなく、高度の専門職業遂行能力を備え、プロフェッショナルとしての自らの存在を可能とし、その存在を裏づけるための高い資質と人間力を具備する者を意味します。ゆえに本研究科は知識と学習能力の向上のみで甘んじることなく、プロフェッショナルとしての唯一無二の人間力の涵養を教育上の特長と位置づけています。

プロフェッショナルたる高度専門職業人は、ある意味において高い存在であり、その行動と先立つ思考および意思決定は自らの社会および職業上の倫理と道徳に照らして行われねばなりません。他者が示した基準や価値観をいたずらに拠りどころとするのではなく、自らが常に問題意識を有し、解決のための方策を追求し続けることでプロフェッショナルとしての自身の存在を可能とすることこそがまさに会計プロフェッショナルの矜持と言えましょう。次代の会計プロフェッショナルの世界がいまここから始まります。